

第2会場●2F 自由研修室

■司 会／奥田 聰 大分県立社会教育総合センター研修企画課 社会教育主事
神田橋芳幸 山口県防府市教育委員会 社会教育主事

分科会の進め方

10:45~10:50

1 「地域の記憶遺産:八幡大空襲を語り継ぐ」 —「語り部」の発掘・「聞き書きボランティア」の養成・記録集の発行・教育への応用— 10:50~11:20

渡辺 いづみ(福岡県北九州市) 北九州市立平野市民センター 館長

昭和20年8月8日、爆撃により、焦土と化した八幡。中心部が被災し、死傷者は約2,500人、焼失家屋は14,000戸にのぼった。戦後70年の節目に、センターでは聞き書きグループ「平野塾15名」を養成し、戦災の語り部を発掘し、地域住民の財政的支援を得て、「八幡大空襲聞き書き資料集」第1集(平成27年)と第2集(平成28年)を発行した。「資料集」は市内の全小中学校に配付され、第2集発行までには、中学生による聞き書きや小中学生の感想文コンクールも実現した。また、昨夏の戦後70年市民の集いでは「語り部座談会」、「太平洋戦争を歌った昭和万葉集の子ども朗唱」を行い、歴史の風化を抑えた。

2 防災教育キャンプで地域をつなぎ、子どもと自然をつなぐ 11:25~11:55

小園 貴寛(熊本県山鹿市) 熊本県教育庁教育総務局社会教育課 社会教育主事

防災教育キャンプは4年目の連続事業である。初年度は青少年教育施設で、2年目は小学校、3年目以降は中学校を中核拠点とした。県の危機管理防災課の助言を得て、運営委員会と実行委員会の2本立て組織を活用し、自助、共助、公助を意識化し、参加者の防災対応能力の向上を目的とした。地域と中学校が連携した防災訓練には、学校、PTA、地域の諸団体、消防、自衛隊が参加し、生徒の参画を重視したことで、学校と地域の連携は元より、地域諸団体の関係性が深まり、地域人材の掘り起こし、郷土愛や次世代の育成に資する所が大きかった。

3 みさと家庭教育10選(実践) ～地域が発想し、地域が実践する「家庭の教育力」向上戦略～ 12:00~12:30

鎌田 次郎(宮崎県美郷町) 美郷町教育委員会 主幹

企画と実践の中心は、「美郷町親子学び合い実行委員会」である。目的は、地域で支える家庭教育ビジョンの作成と実践である。発想は、「地域づくり」、「地方創生戦略」とも連動させている。具体的には、まず家庭教育の重要10項目(キャリア、人権、読書、あいさつなど)を設定し、家庭教育の実践ビデオを制作して、ケーブルテレビで放映した。また、子どもと地域をつなぐ「ミステリーツアー」や「みさとでお仕事,work!ワク!」などのプログラムを並行実施した。成果は、家庭読書の普及、家庭教育推進大会の参加率や授業参観日の出席率の向上などに顕著に現れている。また、アシスト企業の協力を得て、家庭教育支援体制の整備も進んだ。